

2024年度 事業計画 及び 収支予算 について

I— 1 2024年度 公益目的事業計画

2024年度の九州交響楽団は、これまで11年間にわたり九響の音楽監督を務めた小泉和裕氏が勇退されたため、新たに若手指揮者のホープとして注目が集まっている太田弦氏を首席指揮者に迎え、同氏の監修のもと2024年度自主公演の年間プログラムを策定した。太田氏には定期演奏会のみならず全てのシリーズや特別演奏会に出演することで新たな九響の顔となるべく、大々的に売り出すこととしている。

また、この若きマエストロを全面的にサポートしていくため、ミュージック・アドバイザーとして、北九州市出身のNHK交響楽団特別コンサートマスター、“マロ”の愛称で知られる篠崎史紀氏を新たに起用する。篠崎氏には太田氏のサポートのみならず、九響の広告塔としても様々な場で活躍いただくこととしている。

新型コロナウイルス感染症が昨年5月、5類感染症に移行し、世間は徐々にコロナ禍以前の生活環境に戻った状況を呈しているが、クラシック音楽業界においてはその回復度合いが遅く、昨年度の自主公演におけるお客さま入場者数をみると、依然としてコロナ禍以前の90~95%程度に留まっており、厳しい状況が続いている。特に往年のクラシックファンであるご高齢のお客さまの減少が著しく、ファン層の世代交代、若返りが喫緊の課題となっている。このため2024年度の自主公演については、九響の現状を踏まえた上で創立70周年を機にリニューアルする新たな「九響ビジョン」（今回の理事会に再度付議）に基づき、国や福岡県、福岡市、北九州市をはじめ九響後援会各位からの助成を頂きながら、幅広い年齢層のお客さまが「聴きたい」「観たい」と思っただけの指揮者やソリストを多数招聘するとともに演奏曲目についても、より分かりやすく親しみやすい有名な楽曲を数多く取り入れた。具体的にはこれらの楽曲を「定期演奏会」「名曲・午後のオーケストラ」「天神でクラシック」「北九州定期演奏会」の4シリーズを中核とし、「ニューイヤーコンサート」「マタニティコンサート」「九響サマーコンサート」「オーケストラ for キッズ」などの単独公演の各プログラムにおいて披露していく。

SDGs達成のひとつの取り組みとして令和4年から始めた「マタニティコンサート」は開始以来、0歳児から入場できるコンサートとして大好評を呈しており、すべての世代に音楽文化のすそ野を広げていく取り組みとして今年度も継続して開催する。今年度は更に、これまでオーケストラの生演奏を聴く機会の少なかった障がいを持つ方々のためのコンサート開催に向けて、産学官の連携により、スキーム作りを進めていくこととしている。

コロナ禍で中断していた「公演後の楽団員によるお見送り」「九響交流カフェ」など、楽団員をより身近に感じられる機会も再開しており、更に2024年度は定期演奏会において、演奏する楽曲や作曲家のエピソードなどを各指揮者がお話しする「トークタイム」を設ける等、演奏だけでなくお客さ

まに、よりクラシック音楽の魅力を楽しんでいただく様々な工夫を凝らすなど、九響ファンのすそ野
拡大を目指した取り組みを推進する。

(1) 主催公演

主催公演は、九響が自ら企画して市民に幅広く告知・販売して公演を行うことにより、クラシック
音楽の魅力をも市民にお届けし、音楽文化の発展に寄与する公演である。

2024年度については、福岡市で28公演、北九州市で4公演を実施する。

福岡市では、以下の28公演を実施する

- ① <定期演奏会> (10公演)
- ② <天神でクラシック> (4公演)
- ③ <名曲・午後のオーケストラ> (4公演)
- ④ <第九公演> (1公演)
- ⑤ <ニューイヤーコンサート2025> (1公演)
- ⑥ <チャイコフスキー 三大バレエの世界(2023年度延期公演)> (1公演)
- ⑦ <九響マタニティコンサート2024> (2公演)
- ⑧ <サンクス・コンサート> (1公演)
- ⑨ <九響サマーコンサート2024> (1公演)
- ⑩ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロス一万人コンサート)> (2公演)
- ⑪ <オーケストラ for キッズ> (1公演)

① <定期演奏会> (10公演)

<定期演奏会>は、地域における芸術文化の発展を目的とし、オーケストラを通してクラシック
音楽文化の普及促進を図る演奏会。2024年度は新たに太田弦を首席指揮者に迎え、更にN響特別
コンサートマスターであり北九州市出身の篠崎史紀をミュージックアドバイザーとして迎える。
これまで小泉和裕前音楽監督と長年培ってきた独逸音楽の九響サウンドをベースに、これまで九
州交響楽団が取り上げる機会が少なかった作品も積極的に取り上げていく。

具体的にはコロナ禍で離れてしまったお客さまをいかに戻ってきてもらうか、さらに新規お客さ
まをいかに獲得していくかが大きな課題と考え、お客さまに興味を持って聴いていただけるプロ
グラムや、指揮者ならびに出演者が新しい九響、九響の更なる発展をイメージできるようなプロ
グラムを取り上げることにした。

特に新シーズン幕開けの4月定期演奏会では、本番を木曜、金曜の平日2日間とし、2日目の
本番を敢えて試験的に14時の開演とした。これは遠方から来場されるお客さまを鑑み、終演後

でも十分帰宅できるよう考慮したもので、3月8日現在では2日目金曜日のチケット販売枚数が初日の夜公演よりも上回っている結果となっている。

● 2024年度の特徴として

(i) シーズン幕開けの4月定期では、新首席指揮者の太田弦による就任を飾るに相応しいショスタコーヴィチ：「祝典序曲」で幕開けし、お客さまと共に祝いたい。2曲目は人気急上昇のピアニスト亀井聖矢を招き、ショパン：ピアノ協奏曲第1番を演奏。最後に九響が長い間演奏経験がないショスタコーヴィチ：交響曲第5番を取り上げ、華々しい公演とする。

また、11月には再び太田弦が登場して没後100年にあたるプッチーニ：4声のミサを前半に演奏、後半は九響委嘱作品「博多ラブソディ」と和太鼓の林英哲やその仲間たちによる石井眞木：「モノプリズム」で「和」のプログラムを構成して前後半を対照的な企画とした。

全体的にはコントラストとバランスを意識したプログラミングとし、本格的な楽曲も取り上げるなど、大編成のオーケストラの醍醐味を存分にお届けする。

(ii) 多彩なソリスト陣との共演も予定している。5月は注目の若手弦楽四重奏のウェールズカルテットが登場。シェーンベルク生誕150年メモリアルとして、弦楽四重奏とオーケストラとのための協奏曲を共演。6月は大分出身で12歳の時に九響と共演歴があり、現在、メディアでも大活躍中のヴァイオリン廣津留すみれとブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番を演奏する。そして北欧フィンランド出身で、ドイツ音楽を得意とする正統的な初共演のピアニストのアンティ・シーララとベートーヴェン：ピアノ協奏曲第4番を共演する。10月シャルル・デュトワと栄誉ある共演するヴァイオニストは若き辻彩奈。デュトワが選曲したグラズノフ協奏曲をどう弾きこなすか興味深い。2022年11月の「名曲・午後のオーケストラ」で共演予定だった林英哲。前回は残念ながらコロナ罹患でキャンセルとなり、弟子の田代誠が見事に代役を務めた。11月の定期公演では林英哲、田代誠を含めた「英哲風雲の会」が出演し、和の魅力をたっぷり堪能していただく。また、前半のプログラムには没後100年を迎えるプッチーニ：4声のミサ曲を取り上げる。実力あるテノール大槻孝志、バリトン与那城敬と九響合唱団の共演も聴きどころ。

② <天神でクラシック> (4公演)

<天神でクラシック>は、幅広い世代へのクラシック音楽の普及を目的とし、各回それぞれプログラムにテーマを設け、出演者の解説トークを交えることでクラシック音楽に馴染みのなかったお客さまにも生の演奏の魅力を実感していただくコンサート。FFGホールの特性を考慮して小編成のオーケストラ作品の魅力を紹介する。

2023年度から“音楽発見！ラボ”シリーズとしてリニューアルしたお客さまの知的好奇心を心地よく刺激するコンサートでもある。2024年度は隠れた名曲を特集する。名曲をカジュアル

にしみながら音楽の知識が身につくコンサートは、クラシック音楽の入門にもうってつけである。

● 2024年度の特徴として

(i) 若手指揮者の注目株のひとり松本宗利音(マツモトシュウリヒト)と、世界的なチェロ奏者のドヴィート・カンタで、グルダ:チェロと吹奏楽のための協奏曲をお届けする。二人は九響初登場。アグレッシブなグルダの協奏曲は九響初演。また、対照的なドヴォルザークの管楽セレナードやレスピーギの優美な作品も併せてお届けする(5月)

(ii) 2024年度から首席指揮者となる若手指揮者のホープ太田弦が弦楽アンサンブルの妙技を披露する。5月と同じドヴォルザークが作曲した弦楽セレナードと、悲哀に満ちた調べに心が震えるバーバーの「弦楽のためのアダージョ」、そしてオネゲルの交響曲第2番は弦楽器とトランペット1本(3楽章のみ)の楽器編成で演奏する、たいへん興味深いプログラム。(7月)

(iii) 「中学生の未来に贈るコンサート」や文化庁巡回公演で共演した碓山隆一郎が九響初登場。バッハ(ウェーベルン編)の「音楽の捧げもの」~6声のリチエルカーレはバロックと近代が見事に混在する名曲。そしてアメリカのミニマル作曲家ジョン・アダムスのシェイカー・ループス。装飾的なものを極力抑え、さざめく波が揺れ動きながら(=シェイク)繰り返しを続ける(=ループ)ことで官能的な音楽を生み出していくこの曲はミニマル・ミュージックの代名詞とも言われる。メインにはベートーヴェンの名曲「田園」、牧歌的な交響曲を堪能していただく。(10月)

(iv) モーツァルトの誕生日にお送りしているロングラン企画「続... モーツァルトをあなたに」では、長年にわたりベトナム国立交響楽団の音楽監督兼指揮者を務める本名徹次が登場し、本格的なモーツァルトプログラムで臨む。クラリネットのソロ、九響若手首席奏者 宇根康一郎の熱演も興味深い。(1月)

③ <名曲・午後のオーケストラ> (4公演)

2015年度から開催している<名曲・午後のオーケストラ>は、クラシック音楽の普及を目的に、子供からお年寄りまで来場しやすい休日の午後2時に開演し、馴染みのある名曲をお届けすることで、フルオーケストラの迫力や生の演奏の魅力を実感していただく。

● 2024年度の特徴として

4公演全てにブラームスの作品を1曲盛り込んだ企画。

(i) 6月は2022年からN響研究員として活躍する九響初登場の平石章人とN響ゲストコンサートマスターに就任した郷古廉が登場。ヴァイオリン協奏曲の名曲中の名曲ブラームスの協奏曲とシベリウスの哀愁漂う交響曲第2番をお届けする。

(ii) 9月は、元N響オーボエ首席奏者の茂木大輔が指揮者として、冒頭にR. シュトラウスの名曲、交響詩「ドン・ファン」をお届けする。続いてかつてN響アカデミー生だったオーボエ首席奏者の佐藤太一とR. シュトラウスのオーボエ協奏曲を演奏、前半はR. シュトラウスの名曲2曲をプログラミングした。後半にはブラームスの最後の交響曲である第4番を据えて、音楽ファンを唸らせる正統的な内容とした。

(iii) 11月は福岡市出身の平川範幸が指揮を執り、前半はドヴォルザークの「謝肉祭」で華々しく開始。2023年5月の第33回「名曲・午後のオーケストラ」のカルメンハイライトで喝采を浴びた高野百合絵が再登場し、オペラのアリアで魅了する。後半はブラームスの田園交響曲とも評される交響曲第2番に平川が挑む。

(iv) 2月は首席指揮者の太田弦が贈るブラームスの「ハイドンの主題による変奏曲」。ブラームスの真髓を味わえるこの名曲の太田弦の表現に期待が高まる。後半は一気に飛躍し、スター・ウォーズの世界へ聴衆を誘う。時空を超えたユニーク溢れるプログラムを堪能していただきたい。

④ <第九公演>

年末恒例の企画として定着している公演。昨年7月定期演奏会で難曲「サロメ」を自由自在に操った我が国を代表するマエストロの沼尻竜典がタクトを振る。

実力派揃いのソリスト軍に加え、九響合唱団他地元合唱団と共に不朽の人間賛歌を高らかに歌い上げ、2024年を締めくくる。(12月)

⑤ <ニューイヤーコンサート2025>

新年幕開けの公演。2024年は、首席指揮者の太田弦が登場し、ソリストには太田の同級生の小川葉奈を起用。本格的なウイenna・ワルツやオペラアリアを演奏し、お客様と共に華やかに新年を祝う。(1月)

⑥ <チャイコフスキー 三大バレエの世界(2023年度延期公演)> (1公演)

2023年8月に開催を予定していた同演奏会は、台風接近の影響で延期せざるを得なくなったため、2023年度内の開催を調整したが日程調整できず、2024年度4月開催にずれ込んだもの。

チャイコフスキー最後のバレエ音楽「くるみ割り人形」、古典バレエ音楽の最高峰「白鳥の湖」、豪華絢爛な大作「眠れる森の美女」の3曲を一度に堪能できる贅沢なひとときを提供。

⑦ <九響マタニティコンサート2024> (2公演)

本コンサートは2022年度から新たに開始した、お腹の中の赤ちゃんやママとパパにゆっくりとオーケストラ音楽を味わっていただく演奏会。普段コンサートに行きたくても行けない方々にも是非お勧めしたい内容。2022年度からマエストロに辻博之を迎え、指揮と絶妙なトークを交えての楽しい雰囲気、妊婦さんや小さなお子さまの育児に忙しいパパやママに深いリラクスの時間をお届けする。(4月)

⑧ <サンクス・コンサート> (1公演)

コンサート会員に入会いただいたお客さまだけをお招きしてお届けする特別な演奏会。例年は指揮者を置かずにコンサートマスターがリーダーシップを取っての演奏会だったが、今回は首席指揮者に就任する太田弦がタクトを振り、九響が20年間継続している「中学生の未来に贈るコンサート」のプログラムをそのままお届けする。九響が音楽教育の一環として重要と考えているこの「中学生の未来に贈るコンサート」プログラムは、過去20万人ほどの中学生が聴いており、コンサート会員のお客さまのなかにもかつて聴き覚えのある方がいらっしゃるのではと思う。(6月)

⑨ <九響サマーコンサート2024> (1公演)

これまでの企画を一新し、前半は久石譲の名作で誰もが知っている「トトロ」の組曲を作曲者令嬢の麻衣がナレーションを担当し演奏する。後半は大人から子供まで一度は耳にしたことがある、親しみやすい映画音楽特集とした。指揮は首席指揮者太田弦が担当。聴きやすく馴染みのあるオーケストラ演奏を夏休みの一日、家族で楽しんでもらいたい。(8月)

⑩ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロス万人コンサート)> (2公演)

本公演は、アクロス福岡と福岡県教育委員会、福岡県教育文化奨学団体からなる実行委員会と九州交響楽団がコラボして青少年を対象に企画しているコンサート。2024年度も上記団体と協力し、共催事業として2公演実施する。(11月)

⑪ <オーケストラ for キッズ> (1公演)

例年九響が春休みに子供たちに贈るコンサート。聴きやすく楽しめる、そして情操教育の一旦としてオーケストラ音楽を身近に感じてもらえるように企画。指揮は首席指揮者の太田弦、歌のおねえさん西けいこが歌と司会で会場を楽しく盛り上げる。(3月)

北九州市では、以下の4公演を実施する。

北九州市での公演は、福岡県北東部のクラシック音楽普及促進を目的として、4公演を実施する。

- ① <北九州定期演奏会> (2公演)
- ② <第九公演> (1公演)
- ③ <ニューイヤーコンサート 2025> (1公演)

① <北九州定期演奏会> (2公演)

2公演ともに北九州芸術劇場で行う。5月公演は、2024年度からミュージックアドバイザーに就任する篠崎史紀がモーツァルト後期三大交響曲を指揮なしでコンサートマスターとして出演する。長年N響コンサートマスターを務めた真骨頂が発揮される。

また11月は前日の「名曲・午後のオーケストラ」と同一プログラムで、福岡出身の指揮者平川範幸を迎え、前半にドヴォルザークの謝肉祭とソプラノ高野百合絵との華麗なオペラアリアを披露する。後半はブラームスの田園交響曲とも評される交響曲第2番に平川が挑む。

② <第九公演>

福岡公演と同じく沼尻竜典のタクトで実力派ソリストと合唱団「北九州市民フロイデコール」が年末の風物詩となったコンサートをお届けする。(12月)

③ <ニューイヤーコンサート 2025>

福岡公演と同じく首席指揮者の太田弦が登場し、ソリストには太田の同級生の小川葉奈を起用。本格的なウイナ・ワルツやオペラアリアを演奏し、お客さまと共に華やかに新年を祝う。(1月)

(2) 依頼公演

依頼公演は、<主催公演>以外、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートであり、九響にとって重要な収入源である。2024年度の依頼公演については、「中学生の未来に贈るコンサート」が2024年度から新たな契約(3年間)の初年度として39公演を実施するほか、2024年度も文化庁の「文化芸術による子供育成推進事業(巡回公演事業)」に採択されたことにより、10公演を実施する。この他、公演依頼先からお声掛け頂いた場合には、お客さまのニーズにお応えしながらスケジュールが許す限り積極的に受託していく。オーケストラ公演としての依頼公演は86公演を予定している。

また、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽公演》も実施する。この《室内楽公演》も<依頼公演>に含まれる。

前述、<主催公演>、<依頼公演>は、公益法人の公益目的事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の5種類に分類している。

公益法人における公益目的事業区分は以下のとおり。

[1] **定期演奏会** (12 公演：福岡市 10 公演、北九州市 2 公演)

福岡市での

<定期演奏会> (10 公演)

北九州市での

<定期演奏会> (2 公演)

[2] **巡回演奏会** (12 公演：福岡市 10 公演、北九州市 2 公演)

福岡市での

<天神でクラシック> (4 公演)

<名曲・午後のオーケストラ> (4 公演)

<第九公演> (1 公演)

<ニューイヤークンサート 2025> (1 公演)

北九州市での

<第九公演> (1 公演)

<ニューイヤークンサート 2025> (1 公演)

[3] **特別演奏会** (8 公演)

福岡市での

<チャイコフスキー 三大バレエの世界(2023 年度延期公演)> (1 公演)

<九響マタニティコンサート 2024> (2 公演)

<サンクス・コンサート> (1 公演)

<九響サマーコンサート 2024> (1 公演)

<舞台芸術感動体験事業コンサート (アクロス一万人コンサート)> (2 公演)

<オーケストラ for キッズ> (1 公演)

[4] **移動音楽教室** (1 公演)

情操教育を目的とした公演であり、依頼を受け実施する<依頼公演>の一つであるが、
《移動音楽教室》として分類している。

[5] **依頼演奏会** (116 公演：オーケストラ公演：86 公演、室内楽公演：30 公演)

<参考> 公演数一覧

	2024 年度計画	2023 年度計画	2023 年度実績 (見込)	計画比増減
定期演奏会	12回	11回	11回	1回増 ※1
巡回演奏会	12回	12回	12回	増減なし
特別演奏会	8回	12回	11回	4回減 ※2
移動音楽教室	1回	1回	0回	増減なし
依頼演奏会	86回 ※4	77回	88回	9回増 ※3
合計	119回	113回	122回	6回増

※1 第420回定期演奏会(2024年4月11日、12日)2回開催

※2 特別演奏会「鹿児島公演」、「熊本公演」、「東京公演」各1回減、「九響サマーコンサート」2回⇒1回

※3 依頼演奏会9回増、町村会3回減、文化庁3回増

※4 この他に、室内楽公演30回あり

<参考> 2023 年度公演

	計 画	実 績 (見込み)	増減内訳
定期演奏会	11回	11回	増減なし
巡回演奏会	12回	12回	増減なし
特別演奏会	12回	11回	「三大バレエ」2024年度に延期
移動音楽教室	1回	0回	実施なし
依頼演奏会	77回	88回	・依頼演奏会：5回増 ・中学生公演：増減なし ・文化庁公演：6回増
合計	113回	122回	9回増